第１０回池田町・地方創生戦略町民会議　議事概要

□　開催日時　　令和２年12月10日（木）14：00～17：00
□　場　　所　　能楽の里文化交流会館２階　大会議室（小会議室）
□　出 席 者　　委員16名　行政11名　事務局５名

□　開会

□　委員長挨拶

□　確認事項
（１）「なかま」分野について（続き）
総務財政課長が資料に沿って説明

□　協議事項（グループワーク）（大会議室・小会議室）
○「なかま」分野における意見交換（続き）

□　意見交換・総評
委員長：論点２「あなたなら自治支援（『ちょっといいですか？まちの話』や『コミュニティ育成事業』など）をどのように活用しますか？」からグループ１（以下、G1）、グループ２（以下、G2）、グループ３（以下、G3）の順でお願いする。

Ｇ１：　「ちょっといいですか？まちの話」について、鳥獣害対策、木望の森プロジェクト、町の歴史など集落に来て話して欲しい。また、子育て支援は多様な補助金があるが、余り知らない人が多いようなので改めて聞いたらどうか。町長からの話も聞きたいが、５人や10人だけだと無礼にあたると思うので、組織の会合などに来て頂き、町長が現在考えている池田町の構想や、トンネルやダムなどの話も聞いてみたい。町の話を聞くことで、愛着が深まり、自信につながるのではないか。

「コミュニティ育成事業」について、いま各所で土地改良の整備事業が行われ、水田等が大きくなり、機械も大型化になっている。農業経営も10年後に向けた再編も考えなければならないので、「コミュニティ事業」を活用してはどうか。集落営農が能ある田家会議などの組織づくりで本事業を活用し、準備

しながら徐々に土地改良をし、農業経営が進んでいけば良い。

委員長：「コミュニティ育成事業」部分での集落営農や再編について、「コミュニティ育成事業」は集落を超えた複数集落で取り組む事業とあるが、集落を超えて話し合うなり、考えてはどうかという意見でよろしいか。

G1：　それでよろしいと思う。今実際に個人でやっている人、集落営農でやっている人が高齢となり、経営ができなくなることを想定し、今のうちから中地区や水海など地域で考えて、池田町が１つの農業経営体になってくれれば良い。

G2：　「コミュニティ育成事業」について、補助金を使うと失敗できないという不安が付きまとうハードルがあり、責任とか不安を取り除くような町のフォロー体制があると補助が使いやすくなり良いのでないか。

「ちょっといいですか？まちの話」について、良い事業、良い支援だと思うが、まだ十分に周知されていないのではないか。いけだチャンネルで放映されているが、なかなか見る時間がないので、何らかの形で「ちょっといいですか？まちの話」の広報があると良い。

委員長：「ちょっといいですか？まちの話」について、最近は実績が徐々に減って０になっているが、減っている原因はあるか。

事務局：いけだチャンネルの掲示板にはずっと掲載しているが、タイミングが合わないと見られないだろう。いけだチャンネル掲示板以外の方法をいろいろと試す必要があるかと思う。

委員長：そのあたり検証が必要であろう。

G3：　「ちょっといいですか？まちの話」について、まず知らなかった、聞いてなかったということがあった。行政の方もそれなりに周知に努力していると思うが、知らなかったというのがあった。例えば、まず集落で移住者の受け入れについて話し、受け入れようとなれば良いが、そうでない場合は、「ちょっといいですか？まちの話」で行政の方に来てもらい、助けてもらうのが良い。

「コミュニティ育成事業」について、補助が出る手間をかけるのが面倒くさいという傾向が最近増えてきているのではないか。誰かが行動を起こさないと始まらないが、旗を振ることが嫌だ、面倒くさいという考えが出てきていることもあり、集落での祭りなどの行事が減っているのが実態だ。

委員：　集落での集まりで町についてのみんなの思いや意見は出るが、役場の方がどういう思いや方向で池田町を良くしていきたいのか聞きたい。恐らく若い人は役場の方と話をする機会が少ないと思うので、ざっくばらんに話す機会があれば口コミで広がっていくと思う。そして、みんながこんな町にしていくという方向性を共有できるようになると思うので、「ちょっといいですか？まちの話」は残すべきと思う。

総務財政課長：実績なしという点で、当初、役場から押しかけていかなければならない、待ちの姿勢では難しいのではないかという話もあり、最初の頃は常会の際や会合の際に出掛けてしようという勢いだったが、その勢いが徐々に減り、実績なしという状況になった。特に移住者の方は池田のことを余り知らず、少々不安なこともあるかと思うので、もしお声をかけて頂ければ、様々な話をさせてもらう。逆に移住したばかりだと何を聞いていいのか分からないかもしれない。ある程度のメニュー化やわかりやすい説明など考えていきたい。

委員長：住民の方も積極的にリクエストして欲しいし、役場の方から押しかけになってはいけないが、役場から出ていくという姿勢が見えると良い。

論点１「今のままでは、空き家が増え、高齢一人暮らしの家が増え、集落で今までできたことができなくなり、自分の生活も困るようになるかもしれませんが、20 年後も近所の相互扶助のある地域が続くために、そして、住んで良かったと思える（生きていくことができる、楽しむことができる）地域になるために、今から誰（自分含む）が誰とどんな準備ができますか？」をＧ１からお願いする。

Ｇ１：　目指す姿の一つ目は「年代別、性別での活動の活性化」で、青年会、中年会、区議会等の組織の再編、活動の策定、現在の体制の見直しをして、目指す姿を考えていきたい。次に、「空き家をなくす」で、町外にいる子どもに親が年齢を重ねたら集落に戻ってくるよう働きかける。親が亡くなってからでも集落の人が働きかけて、長い間空き家にならないようにする。次に、「移住したい人を取り込める地域」で、移住してきた人は、草刈りや雪囲いをしたことがない方もいる。村の庭仕事にも出ることが、地域に住む移住したい人の考えだと思うし、草刈りや雪囲いの仕方などお世話をしていきたい。次に、「みんなが活動できる場をつくる」で、各団体に目指す姿を話す機会の場、例えば、婦人会で味噌づくりをする時に、地域をどうするか話し合いする。そして、各区長、三役など区の役員が実施する。そして、婦人会や子どもの育成会など各種団体

と連携し、なおかつ、集落の全員で話し合う。

委員長：目指す姿、そのために何が必要か、具体的に誰がやるのかを分けて大変わかりやすかった。青年会や婦人会の再編は、どのようにするか話は出たか。

G1：　青年会、中年会、婦人会、子ども会など、各集落に多く組織があり、例えば、年配女性が婦人会に入っていると、その家の他の若い女性は入りづらい。ある集落の青年会は以前 27 歳で退会したが、今では 44 歳でも退会できない。集落により、青年会がある所、中年会がある所、青年会がなく、中年会からある所など様々だ。例えば、お祭りの行事や自警隊や消防活動の行事は青年会で、中年会は 54、5 歳～70 歳で、70 歳以上が老人会となっている。若い人が関われるよう組織再編成をして、なおかつ、集落の姿を再度見直すことが必要だ。

委員長：青年会や中年会は基本的に男性となると、年配女性でない女性が入る組織がないということか。

G1：　女性は婦人会と老人会の２つあるので、どちらかで対応できるのかなと思う。

G2：　目指す姿を主に①20 年後も残る美しい町、②楽しい町、③人と人との繋がりがある、人を大切にする町、の３つにまとめた。

①美しい町について、空き家や耕作放棄地の話も出たが、河川の草刈りをした後に、コスモスなどを育て、花が咲くような取組みがあると良い。それを誰がやるのかについては、区長や区の役員を中心にとなると、結局任せてしまい、誰かがやってくれるという意識になるので、自分だったら誰とやるのか置き換えて考えた。河川の草刈りを自分がやってみて、賛同者を募って、それから、もう少し場所を広げるために、区に話を持っていく形で取り組む。

②楽しい町について、祭りや体育的な行事など楽しいことが多くあったが、今は人口減少や高齢化の問題もあり、少しずつ縮小されている。近くの友達や仲間うちで小さい話し合いを大事にする場を作り、横の繋がりを広げる。

③人と人との繋がりがある、人を大切にする町について、高齢化が進んでいる地域のため福祉的な活動と空き地対策にもなる農業を結び付ける農福連携の話が出て、それを誰かが計画して進めるのでなく、まずは自分たちで小さな一歩を踏み出したい。魚見の楮や蒟蒻の取組みがあるが、それを発信して、移住者を増やして、人とのつながりを広めていき、楽しい町に繋がっていくと良い。集落が、区がではなく、まず自分たちができる、誰かとできるという小さな取組みから一歩を踏み出すことで、賛同者が増え、町が美しい町、楽

しい町、人を大事にする町につながると良いという夢を語り合った。

委員長：夢をあきらめないで頑張りましょう。美しい町、楽しい町、繋がりのある町と、非常に良いキャッチフレーズでまとめられていたと思う。区長や役員の役割も大きいが、目指す姿を実現するために、一人一人が何をできるのか見つけ出すという発想もすごく重要ではないか。

「愛媛みかんと同等に有名になる」という記載に関して説明して欲しい。

委員：　多くの高学歴の大学生が大企業に就職せずに愛媛みかんの産地に就職するというニュースをみて、魅力とはこういうことかと思った。池田町だと越のルビーかと思うが、そんな魅力のあることをできたら良いなと思った。

委員長：農業ボランティア的なことをしたくて仕方がない農学部の学生が少なからずいる。都市部でもそんな思いを持っている若者がいると感心した。

農福連携の横に書いてある「虫になれる」とはどういうことか。

委員：　都会生まれでない私が1年ほど畑をしたが、虫に大変な目に遭った。農業は美しいだけでなく、獣以外にも虫や病気などにも慣れなければならない。

委員長：大事だと思う。以前、農村には行きたい。農家民宿はすごく面白い。でもカメムシは絶対嫌という学生も多かった。

G3：　20年後の集落の目指す姿について、比較的に戸数の多い集落は20年後も集落機能が維持されて、続いていると思う。残念ながら、自分の集落の20年後を想像すると、戸数は4、5軒というのが現実だ。そこで、集落の目指す姿を取り組んでいくには移住者受け入れが必要だ。自然減少はやむなしだが、それを移住者や定年後のUターンでカバーするしか考えられない。なので、生きているうちに今、準備する。まずは、12月の寄合で移住者の受け入れを提案する。本来なら区長会などで話すのが筋で、効果的だが、時間もかかってしまうため、移住者を受け入れるのか受け入れないのか、集落の将来はこのようになるが、このまま何もしないで、手をこまねいているのかと提案をしようと思う。いずれにせよ、空き家の問題も出てくるので、空き家の情報を共有するためにも提案というアクションを取る。

集落の教科書も必要で、多様な移住者がいて、地域に入りたい人と、池田に住みたいが、余り付き合いはしたくない、ただ自然の中で暮らしたい人もいるので、集落の教科書に関わり方を書き込めば、対応の仕方が変わり、分かって

くるのではないか。助け合いの精神が重要だが、雪下ろしの担い手についても集落内の全戸調査をし、集落の教科書に載せる。人口減に伴う負担増もあるので、負担軽減のためにどんな準備を今からできるのか、共有財産を整理し、管理しやすいようにしておく。資金面の準備や、人口減でも維持できる体制や、やめていいこと、続けていくべきことの整理が必要だ。人口減で新たにしなければならないことも出てくるだろう。それも含めて、集落の教科書を作って残していく。今残さなければ、時期を失ってしまうのではないか。20 年前の人たちの言っていたことがもう忘れられて、分からなくなっているのが実態である。やはり集落の教科書を作るためにも、移住者を受け入れるか受け入れないかの話をしないと次に進めないと思う。

委員長：特に移住者の受け入れに焦点をあてて、どういうことが必要か良く分かった。集落の教科書の話は以前にも出たが、改めて、何を盛り込むのか。外せない点はあるか。

G3：　集落で違うと思うが、ベテランの方がいなくなっても、集落の機能が存続するように分かりやすく書き残せば良いと思う。具体的には、集落で行う行事の内容や祭りのこと、お宮さんの回り順、集会場の回り順、水道の検診の回り順などの慣習やルールを書き残すべきだと思う。

副町長：集落の中の役割をどうするかなどは自治の話だが、G２の夢を語り合う仲間が大事という点は、役場は自治の仕組みばかり議論して見落としていたと改めて気付かされた。特に「なかま」についての夢を語るのに、皆さん躊躇する。覚悟して夢を語るという感じがあるのはなぜか考えていて、社会どこにでもあるが、役場の中でも自分の意見を言うのに躊躇する雰囲気がある気がする。

例えば、移住者について何かを言うと、「いいね」と言う人が少なくて、それをやってどうなるなど問題点の否定的提起が池田町の方は好きなようである。この会議が盛り上がるのは、どうやったら楽しくなるかという話が多いからではないか。なので、みんなができる第一歩として、何かのアイデアが出たら、問題点もあるだろうが、まずは「いいね」と言う聞く力を全員で持てば、気楽に話せるようになるのではないか。

それで、女性部などで「ちょっといいですか？まちの話」を申込み、役場の人間を使って、司会係、ギスギスしない会話をするのもありかと思う。

企画幹兼農村政策課長：なかなか一般の人と本音で話す機会がないし、メンバーにも恵まれ、楽しくさせていただいている。いくら良い仕組みを作ってもそれを活

用していくのは結局人である。行政職員は良い制度を作るだけではなくて、それを使いたいと思ってもらうことが大事かと思うので、できるだけ役場を身近に感じてもらえるようにしたい。

委員長：まちの事業を良くするのも悪くするのも住民の人たちが大いに関係するので、ぜひ「ちょっといいですか？まちの話」に申し込んでもらいたい。

□ 次回の日程について

次回以降は第 11 回目を 1 月 7 日（木）に、第 12 回目を 1 月 28 日（木）に予定する。

□ 副委員長挨拶

□ 閉会